

かしこなりましてかし
こ。

風梨

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

タイトルを漢字にすると『賢なりまして賢。』

ゴロが良いですよね。元ネタはご想像の通りです。

ピカチュウになっちゃった人間のお話です。

息抜きで短編。

目次

びっぴかちゅう

1

びっぴかちゅう

あ、ども。はじめまして。

わい、ピカチュウ。

元人間のピカチュウやで。

普通の人間やない。

このポケモンっちゅーコンテンツがゲームやった世界の人間や。俗に言う異世界転生って奴やな、うん。

え？ 違う？

細かいことはええんや、ハゲるで。

人間おおらかに生きていかんと。

そんなことを考えながら『わい』はゴミ箱を漁る。

都会の醍醐味やな。

漁っていたゴミ箱の中から、状態の良いパンを見つけた。

——おお、ええやんええやん。うまそーなパンや。

『わい』が目を輝かせた瞬間に『しゅたっ』と泥棒猫が奪い去っていった。

喜びからの絶望で『わい』はちよつと唾然とした表情を見せてしまう。

華麗に地面に着地した犯人を見た『わい』の心中は穏やかやない。

——……わいのご飯盗むたあ良い度胸やないかい！ このニャース！

自分が見つけたパンを啜える一匹のニャースと、その周りに集う四匹のニャースがバカにしたように『にゃー』と笑った。

『ぶちん』と何かがキレた音がした。

——ええわ、その喧嘩勝つたろかい！！ わいは普通のピカチュウとは一味違うでえ！

『わい』は血の滲むような鍛錬を繰り返したんや。

ポケモンの体に人間の知性。その組み合わせは驚異的な結果を生み出したわ。

——来る日も来る日も、キャタピーやらポツポツやらビードルやらオニスズメやらを狩り尽くしたわいの実力。見せたるやないかい！ 人呼んで『なにわの黄色い閃光』やで！！ わいに追いつけるもんなら追いついてみい！

全身を稲光させながら、路地裏で見つけた残飯のパンを巡って攻防を開始する。

『わい』は普通のピカチュウとは一味違うで。

——ほな、はじめよか！

初速の差は圧倒的である。

努力値の存在を知る『わい』は生まれて間もない頃から独自に訓練を開始し、戦える年齢^{レベル}に達すると速攻で努力値の回収に勤しんだんや。

その数510体。

メモがないので正確な数字はわからなかったから、実際には700体近く狩ったんやないか？

そんなこんなで鍛え上げた『わい』の素早さは尋常ではないんや。（野良ポケは戦闘不能にしただけや）

振った努力値は『HP』と『素早さ』。

野生で生きるには何よりも継戦能力（HP）と回避力（素早さ）と行動力（HPと素早さ）が求められる。

決断の早い『わい』は生後すぐにそう決めて勤しんだんや。

ま、考えが深くない代わりに決断が早いのが長所やな。

それは戦闘においての、もつと言えば高速戦闘においての長所になるんやで。

ニャースは群れで行動する。

『わい』の目の前でうなりを上げるニャースは五匹。

ペルシアンに率いられればもつと増えるが、所詮は路地裏での残飯漁りの戦闘。数はそう多くないわな。

その全てが『わい』の動きを捉えることが出来たらん。

雷速と言つても良いくらい速いんや。

帯電した『わい』の速度はその表現が近い。

路地裏の左右に立つ建造物の壁を蹴り付けて跳ね上がり、五匹の頭上から『でんきショック』を落とした。

けど『わい』のレベルはまだ高くない。

まだ『10まんボルト』を覚えていない程度のレベルや。

ほんで『とくこう』に振っていない『でんきショック』一撃では、ニャースと言えど確殺を決めることはできん。

それでも五匹は全身に走つた電流に身を固めた。

電撃の強みやな。

そして、一手分有利を作つた『わい』がとつた攻撃は特攻や。

こんな相手にチマチマやつてられるかい！

——いてまろかい我え！

空中に浮いたままであった『わい』はそのまま落下。

真下にいるニヤース一匹に対して、しつぽを『たたきつける』！

頭部にヒットした攻撃で、まずは一匹のニヤースを戦闘不能にした後、続けてしつぽを振り回す。

以前拳を握ったこともあつたんやが、あまりのリーチのなさに絶望してしまつてなあ。

それからはしつぽがメインやで。

つてなわけだな！『ガンガン』振り回して行くでえ！

「オラオラア！ 喧嘩買ったるねん、もうちよい根性見せんかい！」

『せいでんき』の特性は持つていないため、ニヤースが麻痺になることはない。

せやけど、『わい』の圧倒的な素早さから繰り出されるしつぽを避ける事はひつじよくに困難や。

あつという間にさらに二匹のニヤースを戦闘不能にさせた後、復帰してくる残り二匹を察知して『わい』は即時離脱。

数は力や。

こないしようもない戦いで傷を負うなんてアホらしいわ。

最大限警戒しながらフルボッコにさしてもらうで。

意外やと思われるけど、クレーバーな判断は大事や。

野生はちよつとした傷が致命傷になりかねんからな。

『キズぐすり』なんちゆうー便利なもんはないんや。

退いた『わい』はさらに足で掻き回す。

目にも留まらぬスピードで壁を蹴り跳ねる『わい』を捉える事はニヤースには不可能や。

飛び跳ねとる時のスピードが、平地の『でんこうせつか』並みに素早いんやから、当然やな。

んで、そのスピードを自在にコントロールする『わい』は天才や。

我ながら恐ろしいまでの才能やで。

——なんたらと天才は紙一重つてな。あつはつは。つて誰かバカじゃい！

おほん。

ま、こうなれば『でんきシヨック』はもう必要ないわな。

実力試してもするかのように飛び跳ねながら『たいあたり』を敢行して、それから十数秒でニヤースたちは余す事なく戦闘不能になった。

『ぼてん』とお尻を地面につけて、やりきったと言わんばかりの表情を見せる『わい』だけが生き生きしとる。

——ま、わいに掛かればこんなもん、ちよちよいのちよいや。

死屍累々（死んでない）と目を回して積み重なるニヤースを尻目に、残飯のパンを食べ終えて『わい』は満足げに息を吐いた。

——ま、人間様の食事も悪かないわな。かつちゅーて、飼われるつもりはあらへんけど。

『わい』は基本的にストリートで暮らしとる。

森の中でも暮らせるけど、人間やった名残やろーな、パンやら何やらが恋しくなる。

せやけど。

もちろん、飼われるつもりはない。

——飼われる？ モンスターボールの中やて？ 蕁麻疹出るわ、考えられへん。わい

は野生で生きるで。

『わい』は自由人なんや。

せっかくお勤めもない気軽な立場となったのに、わざわざ捕まる必要なんざあるかい。

好き勝手できる実力があるんなら、野生も悪くないで。

とはいえ、それも始めたばかり。

少しすれば人間も良いかも、と思うかもしれないがな。

——まあ、サトシみたいな奴がおるなら、追々で力になってやらんでもない。せやけど、ふつつーの奴になんぞ願ひ下げやで。わいの短いポケモン人生、棒に振つてたまるかい。

ピカチュウの平均寿命は知らん。

せやけど、ネズミというくらいなんや。

長くはないやろ。

半ばそう思つとる。

生きるなら鮮烈に、矢のように駆け抜けたいんや。

人間であつた頃はつまらない生き方しか出来んかつた。

それだけにその願望は強いで。

ま、人様に言うことじゃないわな。

心に秘めていればそれで良いんや。

『わい』の生き方なんて、『わい』が意識してればええんや。

そんなもんや。

——ほな、行こか。

ちよつとおっさん臭い仕草で『よつこら』と起き上がった『わい』が、活気付き始めた都会の喧騒の中に消えていった。

終わり。